

削除してしまった表の復旧

Oracle の「ごみ箱」からの表の復旧

※ 削除したときに「ごみ箱」に入るようにする設定は、

ごみ箱の中を確認

```
show recyclebin
```

ごみ箱の中から復旧

```
flashback table "<表名>" to before drop;
```

「ごみ箱」から削除されてしまった表の復旧方法

この場合には、Oracle のインスタンス全体を過去の時点に戻して、表を復旧するという方法がある

しかし、この方法では全データが過去に戻ってしまうという現象を伴います

よって、以下の手順を使用して、復旧用の**別の Oracle インスタンスを作成**します
次に、別のインスタンスの Oracle での復旧を行います

そして、**エクスポートとインポートを使って**、業務使用の Oracle インスタンスに**表をコピー**します

手順 1. クローン・データベースの作成

手順 2. クローン・データベースへのデータリストア（過去時点の不完全リカバリ）

手順 3. 削除されていた表のエクスポート

手順 4. 本番データベースへの表のインポート

手順1. クローン・データベースの作成

手順2. クローン・データベースへのデータリストア (過去時点の不完全リカバリ)

注意)

クローンとして作成したデータベースに用意するデータ(リカバリ処理)は、
表を削除する前の時点で止めること

手順3. 削除されてしまっていた表のエクスポート

- (1) 一時表領域の追加 (データ・パンプで使用するため)

```
alter tablespace temp  
add <表領域名> ' <新規作成の物理ファイル名>' size ***m;
```

- (2) 復旧対象の表のエクスポート

```
expdp ユーザー名/パスワード DIRECTORY=<ディレクトリ・オブジェクト名> DUMPFILE=<出力ファイル名.dmp>  
TABLES=<復旧するテーブル名>
```

手順4. 本番データベースへの表のインポート

- (1) 復旧対象の表のインポート

```
impdp ユーザー名/パスワード DIRECTORY=<ディレクトリ・オブジェクト> DUMPFILE=<入力ファイル名.dmp>
```

➡表を削除した時刻の調査方法